

令和 5 年 4 月 14 日現在

機関番号：13901

研究種目：奨励研究

研究期間：2022～2022

課題番号：22H04099

研究課題名 古典教育における読解リテラシー向上のための研究 教材開発・授業実践

研究代表者

加藤 直志 (Kato, Tadashi)

名古屋大学・教育学部附属学校・国立中学・高校教諭

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 390,000円

研究成果の概要：国語の授業や総合的な学習の時間において協同的探究学習を随時行った。勤務校主催の「2022年度 WWL 2 年次研究協議会」において、公開授業及び授業検討会を通して成果報告を行い、探究型学習を行う際のノウハウ等について参加者と意見交換した。また、古典教材の開発・実践についても、これまでの成果をまとめ、同志社大学古典教材開発研究センター・山田和人・加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸〔編〕『未来を切り拓く古典教材 和本・くずし字でこんな授業ができる』（文学通信、2023年）を刊行した。同センター第3回研究集也会も開催し、和本・くずし字を活用した古典教育の有効性について、参加者間で知見を共有した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

与えられた問いに答えるだけでなく、自ら問いを立て、論理的に考えながら、自己の意見を表現する力を高めることを目指す「探究的な学び」を初等・中等教育段階から行っていくことには、学術的・社会的意義が大きい。古典への興味・関心を喚起し、人文学的思考力を涵養し、文化遺産・文化資源の活用へとつなげるという点で、くずし字や和本を用いた指導のあり方を探ることも、学術的・社会的意義が大きい。本研究においては、公開授業研究会や書籍の刊行・オンライン無料公開などを行うことで、指導のコツや新たに開発した教材を、他校の教員や研究者、学生・院生と共有し、研究成果を社会全体に広く還元することができた。

研究分野：国語科教育および日本文学

キーワード：協同的探究学習 わかる学力 古典教材 和本リテラシー くずし字 古典籍・和本 和本バンク

## 1. 研究の目的

種々の学力調査から、日本の子ども達は、自分の考えを根拠に基づいて説明するといった、「読解リテラシー」に弱さが見られる傾向が指摘されてきた。論理的思考力や、それを他者に的確に伝える力の涵養は、現在施行されている学習指導要領においても重視されているところである。また、一部では不要論さえ語られる事態となっている、古典の学習においては、古典を学ぶ意義を理解し、興味・関心を喚起できる指導方法が従前以上に求められている。本研究の研究代表者は、論理的に考え、表現する力を高めるための指導や、視聴覚教材・くずし字・古典籍の現物などを用いた、古典への学習意欲を喚起する指導において、学校現場での実践的研究を重ねてきた。これら一連の研究を継続しつつ、新たな教材の開発も行うことが本研究の目的である。さらには、その成果を公開授業や出版物等で広く公表し、他校においても利用しやすくすることで、我が国の国語科教育全体に貢献することを目指した。

## 2. 研究成果

- (1) 藤村宣之氏（東京大学教授・本研究の研究指導者）の指導助言のもと、国語科の授業や総合的な学習の時間において、年間を通じて、「協同的探究学習」を実施した。その成果については、授業の詳細を学会誌（日本文学協会『日本文学』2022年11月）に発表したり、勤務校主催の「2022年度WWL2年次研究協議会「新たな価値を生み出す思考力を育む「課題研究STEAM」を支え、教科の学びをつなぐ「協同的探究学習」」において、公開授業を行ったりすることで公表に努めた。公開授業及び授業検討会では、探究型学習を行う際のコツや注意点、評価のあり方などについて、参加者約20名と意見交換することができた。
- (2) 同志社大学古典教材研究センター（研究代表者も研究員である）や日本近世文学会と連携し、古典教材の開発・実践、その成果の検証を行った。くずし字や古典籍の現物には、学習者の興味・関心を喚起する力があるということについては、これまでの検証結果からすでに明らかになっていたが、短時間でも実施可能な授業形態や教材の開発を行った。学校現場が多忙化していることを踏まえ、より多くの学校で現実的に実施可能な方法を確立したいと考えたためである。本研究の研究指導者である、加藤弓枝氏（名古屋市立大学准教授）三宅宏幸氏（愛知県立大学准教授（当時 現・同志社大学准教授））と協同で、2023年3月に、研究代表者の勤務校において特別授業を実施することもできた。それら一連の成果を、同志社大学古典教材開発研究センター・山田和人・加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸〔編〕『未来を切り拓く古典教材 和本・くずし字でこんな授業ができる』（文学通信、2023年）として刊行した。書籍刊行とともに、成果の普及や学校のICT化に対応するため、本書の全てをオンライン上で無料公開（オープンアクセス）した。同志社大学古典教材開発研究センター第3回研究集会（2023年3月）には、オンラインで100名強、対面で60名ほどが参加し、大学教員・小中高教員・学芸員・出版関係者・院生、学生などが活発に意見交換を行い、和本・くずし字を活用した古典教育の有効性についての知見を共有することができた。

研究成果のさらなる普及や、学校のICT化・新学習指導要領への対応などが、今後の課題として考えられる。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 3件）

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸                           | 4. 巻<br>67            |
| 2. 論文標題<br>くずし字による古典教育の試み(7) 和本バンクを活用した出前授業ー       | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要                      | 6. 最初と最後の頁<br>105-116 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>10.18999/bulsea.67.105 | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)              | 国際共著<br>-             |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>加藤直志                                    | 4. 巻<br>71-11       |
| 2. 論文標題<br>『伊勢物語』第六十九段「狩りの使ひ」の授業実践ー「古典探究」を見据えた試みー | 5. 発行年<br>2022年     |
| 3. 雑誌名<br>日本文学                                    | 6. 最初と最後の頁<br>47-55 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                    | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難            | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>加藤直志                           | 4. 巻<br>31          |
| 2. 論文標題<br>書評 山下太郎著『王朝日記物語の展開ー歌物語と日記物語ー』 | 5. 発行年<br>2022年     |
| 3. 雑誌名<br>古代文学研究 第二次                     | 6. 最初と最後の頁<br>84-44 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし           | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)    | 国際共著<br>-           |

|  |                       |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名<br>加藤直志                                       | 4. 巻<br>115           |
| 2. 論文標題<br>新刊紹介 渡部泰明・平野多恵・出口智之・田中洋美・仲島ひとみ著『国語をめぐる冒険』 | 5. 発行年<br>2022年       |
| 3. 雑誌名<br>名古屋大学国語国文学                                 | 6. 最初と最後の頁<br>124-125 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                       | 査読の有無<br>無            |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている(また、その予定である)                | 国際共著<br>-             |

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

|   |                 |
|---|-----------------|
| 1. 著者名<br>同志社大学古典教材開発研究センター・山田和人・加藤直志・加藤弓枝・三宅宏幸 編 | 4. 発行年<br>2023年 |
| 2. 出版社<br>文学通信                                    | 5. 総ページ数<br>208 |
| 3. 書名<br>未来を切り拓く古典教材 和本・くずし字でこんな授業ができる            |                 |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

研究組織（研究協力者）

| 氏名    | ローマ字氏名              |
|-------|---------------------|
| 藤村 宣之 | (Fujimura Nobuyuki) |
| 加藤 弓枝 | (Kato Yumie)        |
| 三宅 宏幸 | (Miyake Hiroyuki)   |